

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
1	基本概要の掲載事項について	SDGsのように抽象的で大きな課題についてしか記載がなく、これでは「何ができるか」という意見が集まりにくいように感じる。柱の中の小さな項目について、当たり障りのないことでも良いと思うので具体的な活動例があると連想しやすいのではないかと。	B	本計画は「市民活動を促進するため、市の各部局があらゆる事業に取組む上での『理念』を示している」といった特徴があるため、例えば、福祉や環境といった一つの分野に対して細かく関連事業等の一覧を示した計画とは異なる構成としています。具体的なイメージができるよう柱ごと事業例等を掲載しています。
2	計画概要・計画骨子に挿入されているイラストについて	<p>計画概要・計画骨子にイラストが入っていることは、「市民活動」という言葉に対し具体的なイメージを作り、計画の目指すところを市民に伝えやすくする大きな意義があると思います。しかし、今回の計画には「多様な市民の参画」「異なるセクターの協働」「世代を超えた活動の継承」など、象徴的なキーワードが盛り込まれているにも関わらず、イラストにそれが反映されていません。市民活動は自分と関係ないと思う市民が自分ごととしてイメージするきっかけとして、変更を提案します。</p> <p>6点のイラストのうち、特に違和感を感じるのは以下2点です。</p> <p>夫婦らしき男女と子どもが、街の地図をもとに話し合っているイラスト →まちづくりは核家族内に留まる話ではありません。キービジュアルともなるこのイラストは、数名の多様な老若男女で構成してはいかがでしょうか。特にキーパーソンとして、中高生女子（生産人口向上）・店舗経営者（コロナ禍後、活気ある街の支え手）・主体的に育児をする男性など、市民が自身を投影できる、今を生きる人物像を期待します。</p> <p>ハチマキを巻きデモをするような男女のイラスト →デモや団体交渉が市民活動イメージだったのは、20年以上前のこと。しかし、市民活動は一方的に意見を押しつける集団がやることだというイメージもまだ根強く、このイラストはそれを助長するように思います。現在、活発な市民活動グループの武器は対話とITです。多様な市民が垣根を越えて対話する様子に、スマホやPCを加えてはいかがでしょうか。</p> <p>他のイラストについても・多世代・多人種・多業種のイメージを少しでも加えることを提案します。</p>	A	計画で掲げた様々なキーワードが連想でき、取組のイメージが伝わりやすくなるよう、イラストの挿入を検討します。
3	—	市民活動促進基本計画が立てられていること、2030年までに町がどのような姿を目指しているのか、どんな施策なのかということ自体を知らない人が多いと思うので、“自分達の町づくりの案”ということで多くの人にまずはこの計画を知ってもらおうべきだと私は思います。	A	本計画と合わせて作成を予定している「概要版」については、計画そのものの周知に活用できる、分かりやすいものとなるよう検討します。
4	全体	<p>市民活動とはなんですか。それは、市民が自治を形成していく営みであり、市民活動団体とは自発的結社です。結社の自由は、近代社会の根幹をなす概念ですが、それは、「社会」の基礎単位が結社であるという認識が根本にあるからです。そうやって考えると、市民活動促進という概念は、「行政」が市民活動を「促進」するという発想の時点で、何かの間違いを犯しているように感じます。むしろ、市民活動が、行政を促進するのが、本来ということ。なぜなら、結社の集合体が民主主義社会であり、結社の集合意思の反映として、行政が構成され運用されるからです。</p> <p>その意味で、市民活動の最大の意義は、結社を通じて市民を束ね、その市民の集合意思を体現することにあります。平たく言えば、アドボカシーです。つまり、仮に、行政が市民活動を促進するとしたら、結社の自由を「実質的に」（たとえば、資源提供を通じて）保障し、その結社を育てることによって、市民の意思を把握することが目的となります。</p> <p>そうした観点から、この市民活動促進計画はつくられたのでしょうか。</p> <p>市民が参加するというとき、市民は結社の形成者ではなく、単なる活動の担い手として位置付けられていないでしょうか。「参加」participateとは、結社の一部partになることであり、主体的な形成者なのです。なぜ、認定NPOや、NPOに対する寄付額が増えるべきなのでしょう。そうした大きなNPOがあるほうが、小さいNPOがたくさんある状況より良いのでしょうか。大きなNPOは、人々を利用者や消費者にしがちです。一方、小さいNPOは、非効率だから淘汰される方が良いでしょう。小さいNPOがたくさんあることは、人々に真の参加の機会を保障することになります。小さいNPOのほうが、partになる機会をより多く用意しましょう。</p> <p>静岡市では、人々が「市民になる」ことができる施策、まちに対する責任を引き受ける人々が増えることを期待します。</p>	B	第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)は、静岡市市民活動促進協議会での議論等を踏まえ、行政側が市民活動のあり方について示したり、序列をつけるような表現をできる限り避けるとともに、自由な活動が生まれることを市が下支えをすることを通じて、市民活動が活発になることそのものが、結果的に市民の皆さんのより良い暮らしにつながるという趣旨で策定を進めています。

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
5	施策の柱	具体的な活動内容が書かれていると、もっと詳しく調べて参加しよう、となる。	B	本計画は「市民活動を促進するため、市の各部署があらゆる事業に取り組む上での『理念』を示している」といった特徴があるため、例えば、福祉や環境といった一つの分野に対して細かく関連事業等の一覧を示した計画とは異なる構成としています。 具体的なイメージができるよう柱ごと事業例等を掲載しています。
6	活動を次世代につなげるための支援	素晴らしい支援だと思う。	E	ご意見ありがとうございます。
7	人口増減	人口を増やす必要があるのか？人口を増やしたことでのメリットが知りたい。暮らしに影響が何に対してあるのかも知りたい。	E	社会課題の解決や地域における支え合いといった市民活動に取り組む市民が増えることで、暮らしやすい生活環境や安心安全な地域社会の創出につながるものと考えています。
8	とくになし わからない	よい意見がでなかった	E	ご検討ありがとうございます。 ちょっとしたことでも市民活動について関心や興味がありましたら、市民活動センターに足を運んだり、市民活動ポータルサイト「ここからネット」をご覧ください。
9	2 動き出す	買物難民が増え出かける事が少なくなった。要支援者等に対して清水区で行っている買物中心のS型を葵区内でも行ってほしい。(参加したい)	E	S型デイサービスは、地域のボランティアによるミニデイサービスであるため、ご意見の買い物中心の取り組みは、S型デイサービスではないと思われませんが、買い物に関する課題については、地域住民の支え合いによる外出支援の仕組みづくりを支援してまいります。
10	側溝のふた	久能山IC周辺の畑の側溝のみぞが大きく、夜間に通る時には気付きづらく危ないので側溝のふたを設置してほしい。	E	同地区における道路の補修等に関するご相談は下記までご連絡ください。 <市道の場合> 駿河道路整備課 (054-221-1734) <農道の場合> 農地整備課 (054-354-2067)
11	NO. ポイ捨て	まち中のポイ捨てが気になる。清掃・広報活動等	E	市民活動は市が行うものではなく、市民の皆さんが自発的かつ自由な意思で取り組むものです。 本計画は、市民の皆さんがそうした市民活動に取り組みやすくなるよう、市の支援策等の方向性を示すものとなっています。
12	静岡県の海岸清掃(環境)	台風の影響で海岸が酷く汚れており、ゴミが多いので市民活動でも積極的に清掃してほしい。	E	暮らしのなかで気になった社会の課題や地域の困りごとがあれば、市民活動センターに足を運んだり、市民活動ポータルサイト「ここからネット」をご覧くださいと、活動に参加するための様々な情報を得ることができます。

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
13	ゴミ拾いをしながら散歩をしてお互いを知ろう	①ゴールを設定 ②参加する人々に軍手、ゴミ袋を配布 ③話しながらゴミを拾い、ゴールを目指す。 ④お互いを知ることができる	E	市民活動は市が行うものではなく、市民の皆さんが自発的かつ自由な意思で取り組むものです。本計画は、市民の皆さんがそうした市民活動に取り組みやすくなるよう、市の支援策等の方向性を示すものとなっています。暮らしのなかで気になった社会の課題や地域の困りごとに対してアクションを起こしたい場合は、市民活動ポータルサイト「ここからネット」で関連する活動を探したり、市民活動センターで活動の相談に乗ることができますのでぜひ足を運んでみてください。
14	もっともっとゴミ拾いを身近に	いまだに町中にゴミが落ちていても拾われることは少ない。それを無くしていけるように努力したい。例えば、透明なポストの様な物を設置して、そこにポイ捨てされた吸いガラを入れている画像を見たことがある。とある国で実施されているそうだが、それがあつてポイ捨ては減り、ゴミ拾いは増えたそうです。同じ様なことを真似してほしい。	E	
15	計画全体に関すること	静岡市の魅力について、市民でも知らないことがたくさんある。歴史的な背景や街の成り立ちについて、もっとアピールできるといいと思います。具体的には、市民と市で協力して町歩き等のイベントを設置したり、個人でもできることとして、SNS等で発信したりできるといいと考えます。	E	
16	ビン回収BOXの設置	一か月に一度ビン回収日はあるのですが、月一回の回収だと家にビンがたまに置き場所に困ります。自宅が草薙駅周辺なのですが、ビンを回収する場所だけがないので、ビン回収BOXを設置して欲しいです。ビンのリサイクルの促進にもつながると思います。	E	
17	三保の松原の清掃活動について	民間の清掃活動ではゴミの廃棄をする際にお金がかかるので、こんご市民が集まって地域の美化活動する時に無償でゴミをひきとってもらえるようにしてほしい。	E	自治会その他団体等が公共性の高い場所をボランティアで清掃し、大量のごみが発生した場合は市に臨時にごみ収集の収集を依頼できる制度がありますので、ぜひご活用ください。 (依頼先：収集業務課 054-221-1365)
18	「市民活動へのちょっとしたきっかけの創出」について	小学校や中学校のカリキュラムの中に、市民活動について学び、体験する場をもっと用意するべきだと思う。	A	市民活動について身近に感じられる機会の一つとして、子ども・若者へのアプローチについても検討していきます
19	「環境づくり」	より市民活動を促進するためには職員等による講演を教育機関内で増やすべきだと思う。また、そこでも意見を得られることも期待できると思うので、このような「アンケート」を集めるといいと思った。	A	
20	触れる・楽しむ	市民活動を取り巻く状況の把握が一般市民にはしづらいと思う。現状の深刻さを伝える場を増やすと良いと考える。また、活動に参加する勇気が出ないのは経験がほとんどないから。教育の一環として、小学校や中学校の授業の中で市民活動への参加が経験できたら自信をもって、その後も活動に参加しやすくなると思う。	A	
21	柱の1 触れる・楽しむ	学校の授業（小・中・高・大問わず）で実際にやってみることで、どういう活動なのかを周知してもらおうとともに、自分も市民の一人だという自覚を持ってもらう。体験してみないと、他人事だと感じてしまい、積極的な参加は見込めないと思う。	A	
22	—	小学校低学年ぐらいの子どもを対象にした外来生物に関する勉強会を開く。低学年ぐらいの子どもはけっこう生き物に対して興味を持つことが多いので、その興味がなくなってしまううちに日本の生態系をおびやかす外来生物について知ってもらい、見つけても持ちかえってはいけないなどの注意事項を教えるというのがあってもいいのではないかと思います。	A	
23	市の活動などをもっと広めていけるといいと思います。	今回市民活動とはなんだっけ？というワークショップをききました。市民活動もそうですが、市の活動を僕たちはあまり知りませんでした。市民活動をもっと広めるには子どもや若い人が集まるようにインフルエンサーを呼んだり、講座を学校でやったりすることもいいと思います。どうしても市民活動は高齢の方の参加が多いので若い人の参加もこれから必要になってくると感じました。	A	
24	環境活動	大学や高校の授業で、ボランティアに参加させることによって、2回目の参加をしやすい状況を作っていけばいいと考えた。	A	

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
25	市民活動を始めるにあたって	市民活動の第1歩目として、簡単に出来る市民活動は、どんなことがありますか？	E	市内に2か所ある市民活動センターでは、活動場所の提供だけではなく、市民活動に関する講座やイベント等も開催していますので、まずはこうした催しに参加し、体験してみるのはいかがでしょうか。
26	施策の柱1 触れる・楽しむ	市民活動の場にどうしても行政が関わっていますよ、感があると堅くなってしまい、柔軟な、楽な人と人との関りができなくなってしまうと思うので、活動のタイトルをラフなものにしたり、行政の方の人数を減らして活動の場を設けるといいと思う。	D	参加の呼びかけ方の工夫等、各種イベントや講座を企画する際の参考とさせていただきます。
27	「市民活動へのちょっとしたきっかけの創出」について	気軽に参加できるお試し版のような市民活動や、市民活動についての情報に簡単にアクセスできる場があればいいと思う。	B	
28	—	いろいろな人と意見交換できる場所があったらいい 特に、知らない人と話せたら良い。(年齢なども異なる)	B	市内に2か所ある市民活動センターでは、活動場所の提供だけではなく、市民活動に関する講座やイベント等も開催しています。 また、静岡市市民活動ポータルサイト「ここからネット」では市民活動団体の情報が分野や区別に検索することができますのでぜひご利用ください。
29	施策の柱1について	年齢関係なく地域の人と交流できる催しがあればいいと思った	B	
30	ボランティアのメンバー	同年代で話せると交流もできて楽しそうと思えます。もっと大きく出ると、外国移住者のように、海外の方もいると楽しそうだなと思える	B	
31	異文化交流	静岡市在住の子どもからお年より、外国人の人たちで、交流する場をもうける。例) ワールドカップがあったサッカーのまち静岡}サッカーを用いたレクリエーションなど	B	市民活動センターでは、アートや音楽、多文化共生等をテーマとして市民活動に触れる講座や、市民活動団体と連携してパラスポーツを体験するイベントを実施しています。今後も多彩な切り口によって市民活動に触れる機会を創出してまいります。
32	—	市の有名なものを体験できるワークショップ	B	
33	施策の柱1 触れる・楽しむ	市外から通っているのですが、タウンミーティングや市民ワークショップの参加に少し抵抗があります。市外から通っている人たちには、どのような取り組みをしていますか？	B	静岡市自治基本条例では「市民」を、住民はもとより通勤、通学する個人やNPO等の団体を含んで定義しています。市内、市外在住と区別するのではなく、住む人、集う人が個人、団体を問わず尊重し合いながらまちづくりに取り組むことが必要と考えています。

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
34	スポーツによる地域交流	スポーツを通して様々な人びとが協力しながら、地元愛や地域交流を深め、何かあった時に協力的になれるまちをつくりあげる。	B	スポーツの分野でも様々な市民活動が存在します。活動を通じて深まった市民相互の交流や理解が、暮らしやすさにつながるものと考えています。
35	施策の柱1	市民活動団体の抱える問題として、内輪で完結して新規参加者が中々いないというものがあった。また、市民側の感想として、どんな活動があるのか知る機会がないというものがあった。こういった意見は、清水市民活動センターの周年企画の中で、外部へブース出展する中で聞くことができたので、次機会があれば番町の方のセンターとも合同でイベントを開催してはどうかと思った。	B	市内における市民活動団体同士の交流や、市民の皆さんが様々な活動に触れる機会を創出するため、市民活動センター同士の連携に引き続き取り組んでまいります。
36	ー	コワーキングスペースを有効に使うべき。東急スクエア内のコワーキングスペース（有料）を利用している人を見たことない。同じ金あればカフェ行く。無料にするか、市民活動の拠点になるよう促進してほしい。街中に座る所（屋根付）やコワーキングスペースあれば学生の滞在も増えると思う。街中に市民活動（話し合い）の場をたくさん作ってあげれば良いと思う。	D	市民活動に取り組むための拠点としては、市内に2か所ある市民活動センターのほか、各地区における生涯学習施設等を活用しているところです。民間の施設との連携に関するご提案として、今後の取組の参考としてまいります。
37	第4次静岡市市民活動促進基本計画 骨子案 施策の柱1 触れる・楽しむ (2) 市民活動を身近に感じられる機会の創出について	「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」の中から、自分にとって必要と思われる講座をいくつか受講させて頂きました。それぞれの講座の担当課は違っていますが、実際の活動や受講後に行われるフォローアップの勉強会などを通して、静岡市の委託機関同士にも繋がりがあることがわかり、自分自身も広い視野で考え、行動できるようになりましたし、分野を超えて一緒に活動できる人と出会えたり、相談できる場所ができたことをとても嬉しく思っています。	B	「静岡シチズンカレッジ こ・こ・に」をはじめ、市民活動への足掛かりとなるような機会の創出に引き続き努めてまいります。
38	施策の柱①「触れる・楽しむ」について	市民活動へのちょっとしたきっかけづくりと記載されているが、現代では地域住民どうしでのコミュニティの衰退や、地域と個人の結びつきが希薄していることが問題視されているため、市民活動に参加してもらうきっかけをつくる！というのも良いが、まずは、少しでも地域や住民に慣れ親しむための施策が必要になるのではないだろうか。そうすることで、情報が伝わりやすくなったり、地域行事へ参加することのハードルが下がりそうだと思う。	B	地域行事を通じた住民同士の交流等も市民活動に触れるきっかけの一つであると認識しており、自治会や町内会といった地縁団体も含めて、様々な活動が促されるよう取組を進めてまいります。
39	ー	ボランティア・市民活動の日を作る。	D	現時点で市が独自で「ボランティア・市民活動の日」を設定することは考えていませんが、例えば、民間団体が推進する寄附月間（12月）に合わせて「ふるさと応援寄附金」の寄附募集を呼びかけるなど、既存の記念日や月間等の啓発キャンペーンのタイミングを活かした情報発信に取り組んでまいります。
40	メディアを使って私達を知ってもらおう	自分の住んでいる地区で発生している問題を新聞などのメディアで発信し、ボランティアに興味を持ってもらう	D	情報発信の手段としてのメディアの活用に関するご提案として、今後の取組の参考とさせていただきます。
41	ー	デジタル化の進展にあたって、オンラインで参加できるイベントがあればよいと思う。オンラインだと遠くの人ともつながれるのでいいと思う。	B	オンラインでも参加できるイベントが増えることで、これまで時間や場所等の制約によって市民活動に参加しにくかった市民が参加しやすくなるのが期待されますので、今後もインターネットを活用した参加の機会創出に取り組んでまいります。

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
42	施策の柱1	市民への情報の広がりへの支援として、インターネットで、実際に市民活動が行われている様子を動画で配信するなどすれば、市民への情報が増え活動参加のハードルが下がるのではないかと思います。	B	市民活動ポータルサイト「ここからネット」では団体が直接編集できる「活動・イベント情報」の記事にYoutube動画を埋め込める機能が追加されています。市民活動団体が自らの情報を発信しやすい環境づくりに引き続き取り組んでまいります。
43	施策の柱1 触れる・楽しむ	内容に賛成です。市民活動センターでは周年事業として一般の市民にも市民活動を伝える場、団体同士が交流できる場として、イベントを開催しています。しかし、少人数のスタッフが準備するのは大変で、終わった後、疲れて休んでしまう人もいます。どうしたら良いのか。もっと人手が欲しい。	D	周年事業は市民の皆さんが市民活動に触れる場として、また、市民活動団体同士の交流の場として非常に重要な機会であると認識しています。運営上の課題に関しては周年事業を企画運営する指定管理者と協議しながら解決方法を検討してまいります。
44	施策の柱1「知らせる」 (交流の場づくり)	コロナ禍によって市民活動自体がやりにくい状況になったことに加えて、オンライン会議化なども進んだため、市民活動センターの来館者数は今後も伸び悩むでしょう。したがって、来館者数を目標値に掲げるのは不適切であるか、下方修正したほうが良いと思います。この来館者数という目標に関して、長らく思っていたことですが、市民活動センターの夜間の開館時間は21時までで十分です。21時を過ぎても利用者が館内にいることは少ないです。開館時間を30分短縮しても、市民サービスが低下することはほとんどなく、その分の委託費を節減できれば優先すべき他の施策に充てることができるでしょうし、勤務者のワークライフバランスにとっても良いことと考えます。(遅番勤務者が翌日の日勤を務めることは頻繁にあり、これによって勤務者は体調を崩します。過去にはこのことが主な理由で退職した者も何名かおりました。当然、勤務者の退職によってノウハウは蓄積されにくく、サービスの質は低下します。)開館時間の30分短縮については、以前にも担当課職員に提案したことがありますが、「開館時間を短縮すると、”21時までだったら指定管理者に応募できたのに…”という事業者にとって不平等になる」「21時以降に本当に利用者が少ないのかどうか、調べなければならない」と回答されたことがありました。前者の回答に該当する事業者がどれほどいるのでしょうか。また後者については、担当課が両センターに向けてアンケートを実施すればよいことです。コロナ禍で市の税収が減り、財政はますます厳しくなるでしょう。そうしたなかで、市民サービスを低下させない範囲で無駄な支出を減らしていくことは、喫緊の課題であると考えます。ぜひ、(必要ならばアンケートを実施し、その結果をもって)条例を改正して、市民活動センターの開館時間の短縮と委託費の節減を実現していただきたい、と強く提案いたします。(私は指定管理施設の嘱託職員ですが、その経験を踏まえつつも、あくまで個人、一市民として投稿いたしました。)	D	成果指標については、社会情勢等も踏まえた適切な数値目標を検討してまいります。また、開館時間に関するご提案についても今後の取組の参考とさせていただきます。
45	施策の柱4 つながる・変わるについて	より多くの市民が市民活動に参加するきっかけをつかめるよう、広告や宣伝に予算を多くつぎ込む	D	限りある財源を有効に活用しながら、市民への情報の広がりへの支援に取り組んでまいります。
46	サイトの魅力をあげるために	サイトが固く質素であるため街や活動の魅力を十分に発信できていないのではという意見がでました。サーキュレーション株式会社さんのように、会社・役所が一時的に必要としている人材を探しマッチングしてくれる仲介会社はいくつかあります。そういった会社を通して広告・サイト作りに強い人を見つけノウハウを一時的に教わることで、サイトを魅力的なものにできると思います。	D	市民活動ポータルサイト「ここからネット」に関しては、現時点でデザイン等を全面的にリニューアルする予定はありませんが、ご意見については、今後の事業検討にあたり参考とさせていただきます。
47	市民活動を身近に感じられる機会の創出	行政や市民活動団体等との対話の場を設けるとのことだが、どこでやるかなどを知ることが少ないので、チラシやSNSなどで広報活動してほしい。	B	情報の広がりを進めていくため、発信したい情報や届けたい相手に応じて、SNSを含め様々な手法の活用や呼びかけの工夫を検討してまいります。
48	施策の柱1 市民への情報の広がりへの支援	市民活動という言葉がなかなかなじみのないものだったので、もっと積極的に、インスタグラムやツイッターなどで、活動の詳細を動画や写真であげるなどして広報すると、多くの、特に若者には届いていくと思った。	B	
49	—	利用目的別にどんな施設が利用できるのか検索できるサイトがあれば、イベントなどを開催しやすくなるのではないかと。また、静岡に来たばかりの人でも町にどのような施設があるのか歩いて回ったり、車でめぐったりするようなイベントがあると町になじみやすくなると思う。	D	現在のところ、市の公共施設の使用状況等を一元的に把握できるサイト等はありませんが、活動がしやすい環境づくりに関するご提案として、今後の取組の参考とさせていただきます。

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
50	施策の柱1 市民への情報の広がり支援 市民活動創 Portalサイトについて	「ここからネット」の周知と活用に向けて公開から大分経過していますがトップページに変化が乏しい。最新情報やトピックスなど、トップページの掲載情報を随時より新しいものに変えてほしいです。また、団体の方にサイトについて伝えても、なかなか活用につながらず、もったいないと思います。ここからネットを活用して良かった、という事例の紹介も必要ではないでしょうか。	B	
51	施策の柱1 触れる・楽しむ	(1) 市民への情報の広がり支援 私、今回の施策の内容を目にして、市民活動Portalサイト「ここからネット」の存在を知りました。使用してみて、とても興味あるサイトであり、また、運用上も魅力的なサイトと感じました。これから活用していきたいと思います。 このサイトは、2018年5月10日に開設され、4年7カ月経過しております。4年7カ月の運用期間で、「サイトとしてのこれだけの情報量は少ない」のでは、、、と感じた次第です。 このサイトの存在をより多くの市民に伝達する手法、各種市民活動団体での活用手法、コンテンツの充実にむけた取り組み手法の採用等に関して、関係者の連携による取り組みに改善の余地があるのではないかと感じた次第です。	B	市の市民活動Portalサイト「ここからネット」については、掲載情報の更新頻度低下が課題となっていることから、ボランティア情報の登録等を積極的に行う等、情報の更新に努めていくとともに、市民活動団体との連携により内容の充実やサイトの周知を図ってまいります。
52	施策の柱1 「触れる・楽しむ」に関して ここからネットのシステム拡充	イベント情報を地図で検索できるなど、サイトの利便性が非常に高いと感じた。しかしこのサイトの露出はまだ低いのではと思う。今回の出前講座がなければ私はおそらくこのサイトとは出会わなかった。このサイトをよりよく運用するための広告・宣伝活動を（メディアや自治会等を通したチラシを世帯にくばるなど）拡充したらよいのではと思う。	B	
53	触れる・楽しむ	どんな活動がいつ行われているのかが一目で分かる表のようなものがあると、市民活動に参加しやすいと思う	B	市の市民活動Portalサイト「ここからネット」では、イベントやボランティア募集情報等が随時更新されています。分野別、区別等、様々な形で検索できますのでぜひご利用ください。
54	市民活動を知る	どんなボランティアがあるのか、定期的に更新していくサイトみたいなものがあるといいなと思います。	B	https://kokokara-net.jp/
55	市民活動へのちょっとしたきっかけの創出について	市民がお互いに情報を広め合って社会全体へ伝えることができるような環境づくりに取り組むと書いてあるが、コロナによって他人と関わる機会が減っているためなかなかそのような環境をつくることは難しいように思えるが、どのように支援するのだろうか。リモートでの会話やSNS上での情報の発信を増やしていくのだろうか。	B	市の市民活動Portalサイト「ここからネット」では、市民活動団体が直接イベントやボランティア募集の情報を編集、発信できるようになっています。こうしたツールを活用することで、市民がお互いに情報を広め合うことができる環境を整えてまいります。
56	市民活動参加へのきっかけ創出について	大学生になると地域とのつながりが薄れ、市民活動がいつ、どこで、どのように行われているのか知る機会が減ってしまった。市民活動に関する情報が受動的に届くようなシステムがあれば、市民活動を知り、興味を持つ人も増えるのではないか。	B	市民活動センターでは定期的にメールマガジンを配信したり、FacebookやTwitter等SNSによる情報の発信を行っています。こうした情報発信をしていることそのものを周知していくことも含めて、情報の広がり支援に取り組んでまいります。
57	—	市民活動について、もっと知れる場所や機会が増えるといいなと思いました。例えばホームページや雑誌などで活動の様子をもっと知りたいと思いました。	B	

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A：計画に反映する B：計画に反映済み C：計画に反映しない D：今後の取組の参考とする E：その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
58	「触れる・楽しむ」の②について	「実際に体験し、交流し、楽しむことができる場」とありますが、それは一体何について楽しむ場なのかその内容が重要な点だと考えます。ものづくりや観賞の場の提供も興味深いですが、私としてはそれ以上に詩や作文、デザインなどの文学的、芸術的創作の場の提供を重視してほしいと考えます。それらを通し、自らの感性とそれに共感した他者との間で対話を生み、新たな価値観を創造するという経験が市民活動にあれば面白そうです。	A	市民活動センターでは、アートや音楽、多文化共生、防災、環境等をテーマとして市民活動に触れる講座や、市民活動団体と連携してパラスポーツを体験するイベント等を実施しています。 その中で「市民活動」と一括りにするのではなく、届けたい相手に応じた内容や手法によって取り組むという視点を計画に取り入れるとともに、市民の皆さんにとって親しみやすいテーマや切り口によって市民活動に触れる機会を創出してまいります。
59	第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)の概要について	「どのように情報を得たら良いか？」については、多くの人が苦労しているところだと思います。せっかく情報を得るためのシステムやサイトが用意されていても、それを知るための情報に辿りつくことさえ難しいからです。「市民活動に関する情報」という大きな括りだけではなく、それぞれの目的や対象となる人に合わせた情報提供のあり方を考えていくと同時に、何かを始めるための手がかりとなるような情報を広く一般の人に伝えることができ、市民の側が受動的に情報を受け取れ、市民に気づきを与えてくれるような情報提供のあり方を考える必要があるのではないのでしょうか？ 市民活動が日常的に当たり前存在することができれば、自然に人と人とが繋がる環境が作られ、多くの人が安心して暮らせるまちづくりができるのだと思います。次の8年間で目標が達成され、静岡市がより魅力ある住み良いまちになることを期待しています。	A	
60	触れる・楽しむ	具体的にどういった取り組みをするのか？ある程度市民活動や行政に関心がある人でないと足を運ばないようなイベントではなく、人が集まる場所、知名度の高い人とのタイアップも有効なのでは？行政として市民活動を広めるために市民団体と協力して欲しい。団体同士のつながりの場を設けたり、情報弱者といわれる人へのフォローなど	A	市民活動センターでは、アートや音楽、多文化共生、防災、環境等をテーマとして市民活動に触れる講座や、市民活動団体と連携してパラスポーツを体験するイベント等を実施する等、様々な切り口で市民活動の啓発を行っています。「市民活動」と一括りにするのではなく、届けたい相手に応じた内容や手法によって取り組むという視点を計画に取り入れるとともに、今後も市民の皆さんにとって親しみやすいテーマや切り口によって市民活動に触れる機会を創出してまいります。
61	施策の柱1 触れる・楽しむ	多くの市民が、触れて・参加して・楽しむ事はすごく大切なことと感じます。しかし、一部の人が触れていないように感じます。静岡市や団体のHPには記載があるでしょうが中々そこにたどりつかない人が多いのではないですか？ 反対に触れて参加したい人は自ら探しに行くはずで。SDGsのごとく「だれ一人取り残さない」市民参画に向けて市民活動や生涯学習の場を広く広めることですね。たとえば、自治会の回覧板や掲示板に掲載したり、自治会長や地域の核になる人を使い広めることを期待します。100年時代必要なことですね。	A	
62	市民活動を身近に感じられる機会の創出	高校生や大学生それ以下の若い世代にも分かりやすいパンフレットを作って、大人のいない話し合いの場を設けてみたら、地域を創る若い世代への意識を持たせることができるし案外奇抜で面白い案がでるかもしれない	D	本計画と合わせて作成を予定している「概要版」については、子ども・若者へのアプローチも念頭においた分かりやすいものとなるよう検討してまいります。
63	施策の柱1 「触れる・楽しむ」	県外から訪れる人（住む人）に対して、静岡のそれぞれの地域の有名な特産品とか、学生のために活用できるお店の情報等をまとめて教えてくれるような場やイベントなどがあつたらいいと思う。	D	静岡市の魅力を県外へ発信していくためのご提案として、今後の取組の参考とさせていただきます。
64	市民活動に参加するための情報について	市民活動の情報についてもっと知ってもらうための宣伝をもっと活発に行うほうが良いのではないかと思います。人目につくような場所（スーパーマーケット、飲食店等）に、お願いをして貼り紙をすることや、インターネット上でもっと大きく情報をのせるなどを行えば良いのではないかなと思います。	B	
65	市民への情報の広がりへの支援	自治会や町内会を中心とした市民活動は、地方から来た学生からすると活動内容が耳に入りにくい。学生も市民活動に取り入れるためにはSNSや大学を通じて情報を広げると良いと思う。	D	情報の広がりを進めていくため、発信したい情報や届けたい相手に応じて、SNSを含め様々な手法の活用や呼びかけの工夫を検討してまいります。
66	活動参加	興味がある人は情報を自ら見つけに行くと思いますが、参加を考えていない人は市民活動の情報を何も知らないと思います。なので、ホームページ以外に、SNSの広告などを利用することで見つけてもらいやすくなるのではないかなと思いました。また、参加を募集する際に、参加することで得られるものを記載することで、参加してみようとする人が増えると思います。（例えば、参加すると、〇〇の成長が期待できますなど…）	D	
67	市民活動の立ち上げを支える仕組みづくり	活動の立ち上げ、仲間づくりのサポートをする内容として、インターネット上でポータルサイトを設立することが、仲間づくりのサポートに適していると考えた。手軽に、自分の行いたい活動の発信、受信が行える場を提供することで、より活動の仲間づくりがスムーズに行えると思う。	B	市の市民活動ポータルサイト「ここからネット」では、市民活動団体が直接イベントやボランティア募集の情報を編集、発信できるようになっています。団体の活動支援の観点からも、情報発信がしやすい環境を整えてまいります。
68	市民活動の支援	市民活動をするとしても、お金がかかります。市役所が、「自分達でふたんしてがんばってください」ではなく、市民活動のてだすけを市役所に人達にしてもらいたいです。たとえば、人材や資金、道具、施設、募集などしてもらおうと助かります。	B	市民活動センターでは、活動のための資金調達や広報等に関する助言や、施設の貸し出し、人材育成のための講座といった様々な支援を行っています。引き続き市民活動に取り組みやしやすい環境づくりを進めてまいります。

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
69	施策の2 仲間づくりのための助成金制度創設	静岡県内の市町の中には、市民団体への活動資金を助成する具体的な仕組みが出来ています。市民活動の立上げを支援する仕組みづくりに、人・モノ・金の三要素が必要なことを行政が認識していないとは思えません。他の市町における施策を参考に資金助成を計画骨子に盛り込んでいただきたい。	C	現時点において、市民活動の立ち上げ支援を目的とした直接的な資金助成は考えていませんが、立ち上げの段階における仲間づくりや活動場所の貸出、資金調達に関する助言など市民活動センターを通じて支援を行っているところです。引き続き市民活動に取り組みやすい環境づくりを進めてまいります。
70	施策の柱2の①について	①(多様な主体が日常的に市民活動に参加できる環境づくり)を実現するために具体的にどのような取組を想定しているのでしょうか。	E	例えば、外国籍の市民が多く生活する地域における自治会・町内会を中心とした先進的な地域参画促進の取組を広めたり、市民活動団体との協働による、障害の有無に関わらず参加できるイベント等、より多くの市民活動に触れる機会を創出できるよう、取り組んでまいります。
71	施策の柱3	私は外国人留学生で、現在もすでにボランティア活動に参加しています。たとえば先月ミカン収穫援農と由比情報発信という活動に参加しました。外国人から見ると、体験とボランティアを一緒にできたらみんなが参加したいと思います。	D	「市民活動」と一括りにするのではなく、市民の皆さんにとって親しみやすいテーマや切り口によって市民活動に触れる機会の創出に取り組んでまいります。
72	施策の柱3 創る・実現するについて	保育士の人数の少なさが社会問題となっており、静岡市も、その例外ではないと思います。私は小さな子供が好きなので、保育士さんたちと共に小さい子供の世話をできるボランティアがあったら、ぜひ参加してみたいと考えています。	D	「市民活動」と一括りにするのではなく、市民の皆さんにとって親しみやすいテーマや切り口によって市民活動に触れる機会の創出に取り組んでまいります。
73	内外からみる静岡市	学生が、市に対して、意見を述べる場が頻繁にあればと思う。学生は、地元出身だけでなく、県外・市外出身の人も多い。内からみる静岡市、外からみる静岡市を、未来を担う若者の視点から、それぞれ紹介してもらえれば、足りないもの、さらに暮らしやすいまちづくりに必要なものが分かり、参考になると思った。	A	市の施策に対する意見聴取等、市民参画手続の周知についても、情報を届けたい相手に応じて、SNSを含め様々な手法の活用や呼びかけの工夫を検討してまいります。
74	パブリックコメントへのパブリックコメント	パブリックコメント自体が知られていない。身近に感じている人が増えるように、工夫が必要。フィードバックが欲しい。	A	市の施策に対する意見聴取等、市民参画手続の推進にあたっては、意見聴取だけでなく、その結果のフィードバックについても周知を図ってまいります。
75	子供と市とのコミュニケーションがとりやすい環境が欲しい	最近公園が減っていたり遊ぶ場の時間が縮まっていたりして小学生を中心に不満があると思うので、子供が簡単に市等に意見が言える環境をつくってほしい。	D	市民参画を推進するための提案として今後の取組の参考とさせていただきます。
76	②市民活動の立ち上げを支える仕組みづくり	市民特に学生の中には何か挑戦してみたいと思っている人がいるが、どうしても一歩みだせず「サイレントマジョリティー」にとどまっている方達が多く存在するのでとても良い取り組みだと思った。意見の発信しやすい環境づくりに取り組んで欲しいと特に思った。学校での広報活動をより強化して欲しい!	B	市の施策に対する意見聴取を行うにあたり、学校への出前講座を通じて周知や説明を行ったり、その場で意見をいただく例もあることから、そうした機会の拡大に務めてまいります。
77	施策の柱2	活動に参加しない理由として“活動の内容や参加方法がイマイチわからない”、“一緒に参加する人がいない”などというのがあると考えられるので大学や高校などに積極的な参加を呼びかけることで、コロナ禍で希薄化した人間関係を再構築するキッカケとなるとともに市民活動に対する認知や理解が深まっていくのではないかと(生協との連携、Twitter等による情報発信など)	D	子ども・若者へのアプローチに取り組むとともに、発信したい情報や届けたい相手に応じて、SNSを含め様々な手法の活用や呼びかけの工夫を検討してまいります。
78	施策の柱2①	私はバイトで外国の人と関わりがあり、不便なことや分からないことをよく聞かれます。そのため、外国の人どうしの交流や、国際関係に興味を持つ人たちとの交流の機会を設け、外国の人に静岡のことを知ってもらえる機会があれば良いと思います。	E	市の「多文化共生のまち推進条例」に基づき、多様な文化又は生活習慣を持つ市民相互の理解を深めることができるよう、地域における交流の促進に取り組んでまいります。

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A：計画に反映する B：計画に反映済み C：計画に反映しない D：今後の取組の参考とする E：その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
79	施策の柱2 動き出す 多様な主体が日常的に市民活動に参加できる環境づくり	全体として、前回の計画よりも多様な主体、多様な人々など、多様という言葉が多く出ているが、外国人や障がい者など社会の周縁にいる声の届きにくい人たちの市民活動への参加の機会を届けるにはどんな工夫をしていくのか。	B	例えば、外国籍の市民が多く生活する地域における自治会・町内会を中心とした先進的な地域参画促進の取組を広めたり、市民活動団体との協働による、障害の有無に関わらず参加できるイベント等、より多くの市民活動に触れる機会を創出できるよう、取り組んでまいります。
80	施策の柱1 「触れる・楽しむ」に関して ここからネットのシステム拡充	イベントに参加したらポイントなどが加算されていき一定数で生活用品等の報酬と交換ができるなどのシステムがあれば、若年層や家庭からの参加も高まるのではと考える。	D	
81	実際に参加する時のハードルが学生にとって高い	参加を想定しているのが学生でなければ全く問題は無いが、学生にも参加をしてもらいたいと考えているのならば、参加するメリットを明確にしてほしいと思います。自分だけかもしれないが、バイト代で学費、食費、光熱費をまかなわなければならないので、週末は大変貴重なものなので、支援をしっかりとってから、市民活動への参加をうながすべきだと考える。	D	
82	制度	ポイントカードを作り、全て溜まった人に賞状を送る。	D	
83	市民活動に参加しやすくするきっかけ作り	ボランティア活動や町内会など市内で行われる活動をするポイントがもらえる→ためたポイントを使って市の特産品をもらえるといったポイント制度にして少しでも市民活動に参加しやすくすること、市について知ってもらう機会を作る。	D	
84	ボランティア活動	静岡市でのボランティアの際に、粗品として静岡市の特産品や名物を貰えたら良いと思う。参加することで地域貢献と同時に地元への理解や地産地消へも繋がると思うから（ふるさと納税のような仕組み）	D	
85	参加者の増加	参加した際に小さい子供ならお菓子、大人なら生活用品をていきょうする。	D	市民活動に参加しやすい環境づくりのためのご提案として、今後の取組の参考とさせていただきます。
86	参加者を増やす方法	ボランティア活動に参加することで就職に有利になったり、水道代や電気代が安くなったりするような制度を作れば良いと思います。	D	
87	参加したお礼品	ボランティア活動を参加し、参加したお礼としてファイルや文房具などをプレゼントする。	D	
88	市民活動へのきっかけの創出	献血ルームなどでは終わった後にジュースやお菓子が無料で食べられるということが魅力に感じている人も多いと思われるので何か物でさそい込むのは可能かと思えます。しかし、資金的な面やそもそも何を配るのかなのですが、何か企業を巻き込んだりすることができればその商品や作品を持ち上げてボランティアに参加する人をつのることができると思えます。そうしたらインターネットでオフ会のような形での気軽な参加をつのこともできると思えます。	D	
89	参加者を増やす方法	若者が参加するために現代で若者に役立つようなグッズをわたす。もしくはお菓子等	D	

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
90	ボランティアの移動手段	ボランティア活動を実施している場所が、住んでいる場所から遠く、ボランティアに行くのを中止したという人が少なからずいると思います。なので、バスなどある程度遠くても行けるように、送迎の手段を持っているといいと思います。	D	
91	日常の一部	静岡市内→静岡駅への交通手段は多いが市内→市内へのアクセス方法が増えると便利。特に車を持ってない人向け	D	
92	清水駅から出発するバスの数を増やして欲しい	清水駅から三保の松原方面に行くためのバスの最終が22時半くらいまでしかないため、夜遅くに駅を利用して家に帰ろうとするとバスがないという事が多いため、バスの最終便の時間を23時半くらいにしてほしいです。	D	
93	ボランティア参加時の移動手段	1人暮らしの大学生などは、ボランティアに参加したくても実施場所が遠く移動手段が無いため参加できない場合があると思う。そのような人々の移動手段の提供が行われると参加しやすくなると思う。	D	活動が行われる場所へのアクセスも、参加しやすさに影響するものであることから、市民活動に参加しやすい環境づくりのためのご提案として、今後の取組の参考とさせていただきます。
94	広報	第一にボランティアによってこれまでどのような成果が出たのか、ということと、そもそもどのようなボランティアが行われているかをもっと大きく広報しなければ人が集まることがなく、ボランティアにすらならないと考える。そのうえで、改善してほしいものがバスの営業時間である。もちろん、静岡市の意志で変えられるものではあまり無いと思うが、自然をどうこうや、協働がどうこうよりも分かりやすく住民に活動の大事さを知ってもらえることができる。その積み重ねが大きなものを変えることにつながるのではないかと。	D	
95	ボランティア等のための移動手段について	様々な活動に参加しやすくするために、公共交通機関の発展に注力してもらいたい。具体的には、三保半島にも電車を通してほしい。	D	
96	—	気軽に友人と参加できるようなボランティアなら参加したいと思う。長時間のボランティアに参加することは難しいので、午前だけ、午後だけなど短時間のものなら参加したい	D	
97	施策の柱2 動き出す ① 多様な主体が日常的に市民活動に参加できる環境づくり	大学ではボランティアサークルが存在し団体でボランティアに参加をしていますが、サークルに加入していない場合でボランティアに参加をしたいと考えていても個人だと参加方法や、1人だと参加しにくいという気持ちがあるため、参加が容易で1人でも参加しやすい制度があったらいいなと思っています。	D	
98	気軽に参加できるボランティア活動に参加したいです。	なかなかボランティア活動に参加するというのが気持ち的に難しくできないでいます。近くにあつて、持っていかないといけないものも、ないか簡単に用意できるものもいいです。できれば広告とかチラシを配ってわかりやすく知らせてほしいです。	D	市民活動に参加しやすい環境づくりのためのご提案として、今後の取組の参考とさせていただきます。
99	ボランティア開催の日時について	平日の昼間等、参加しにくい日時に開催されるイメージが強いため、土曜の昼や金曜の夜等参加しやすい日時に短時間でできるものが増えたら参加しやすくなると思いました。	D	
100	ボランティアに対する学業への影響	ボランティアは平日にやっている事もあると思うのですが、学校を休みたくないために行けないという方も居ると思うため、ボランティアに行った人は欠席にならない制度があったら良いと感じます。ボランティアに行きたいけど皆勤賞も取りたい子を救ってあげてください。	D	
101	施策の柱3の創る・実現する	市民活動を支援する制度があることをもっと情報宣伝し多くの人に知ってもらえることができれば、元々市民活動をやってみたいと思っている人だけでなく支援してくれることを知ったことでやってみようと思う人にも良い刺激を与えることができより活性化するのではないかと思います。そのためにはSNSを使った情報宣伝が効果的だと思います。	D	市民活動の支援制度の周知という観点においても、発信したい情報や届けたい相手に応じて、SNSを含め様々な手法の活用や呼びかけの工夫を検討してまいります。

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
102	実現するについて	案内したい！（隊）旅プロジェクト、「県外の人」に、市内を案内、2スポット以上回るとクーポン配布するなど、市民の内輪のみならず外へも静岡を広めたいです。	E	市民活動は市が行うものではなく、市民の皆さんが自発的かつ自由な意思で取り組むものです。本計画は、市民の皆さんがそうした市民活動に取り組みやすくなるよう、市の支援策等の方向性を示すものとなっています。静岡市の魅力の発信やイベント企画等のアクションを起こしたい場合は、市民活動ポータルサイト「ここからネット」で関連する活動を探したり、市民活動センターで活動の相談に乗ることができますのでぜひ足を運んでみてください。
103	市民活動センターの役割	施策毎の「事業例」に、市民活動センターの事業が掲載されています。今までと特別に変わった事が出されたわけではありませんが、一つ一つの取組に対して、センタースタッフの力量が問われるように思います。その為、事業例の具体的な内容をどのように作ってきたのか、それをどう改善していくべきか、指定管理者同士、または行政の担当課ともっと突っ込んだ議論が必要だと思います。また、スタッフをどう育てていくのか、も難しい課題です。単なるアルバイト気分ではなく、中間支援のプロとして育てていく事、そのための待遇改善も必要です。このままでは生活していけないと言う切実な声にどう応えるのか、いつも悩んでいます。	D	市民活動センターにおける中間支援の機能を高めていくにはスタッフの育成が欠かせないものと考えています。運営上の課題に関しては指定管理者と協議しながら解決方法を検討してまいります。
104	施策の柱3,4 市民活動センターの団体支援について	市民活動団体の人材、育成や相談業務を通じた後継者育成を市民活動センターがおこなうにあたり、センタースタッフにも経験やスキルが求められます。しかし、研修や実践を通じて若いスタッフがある程度成長しても結局離職していきます。多くの場合、業務内容に比して一人の人間が生活していくに十分な保証が得られないというのがその理由です。充実した支援をおこなうためには中間支援に取り組もうとしている若い世代の生活保障についても考えていただきたい。	D	
105	施策の柱3①市民が市民活動を支え合える仕組みづくりについて	活動の環境を整えたとしても、参加する人が一部の人だけということになりかねないのではないか。市民活動を行うにあたっては、幅広い層の参加が望ましいため、今以上に呼びかけを行ったり、広報の仕方を多様化したりすべきではないか。	D	市民活動の支援制度の周知という観点においても、発信したい情報や届けたい相手に応じて、SNSを含め様々な手法の活用や呼びかけの工夫を検討してまいります。
106	施策の柱3	「市民活動を支え合える気運を高める」とありますが、気運という成り行きに任せているように感じました。目指す姿でも「自発的に支え合いができる」とあるので、「意識を高める」という意味合いの言葉にして、自発的に行動するような内容にしてはどうかと思いました。	C	個人の意識の高まりだけではなく、社会全体において支え合いや市民活動を応援することを浸透させていくという意図で「気運」という言葉とさせていただきます。
107	施策の柱4 つながる・変わるについて	活動を次世代につなげるための具体的活動について、教育機関との連携があるといいと考えます。学齢期から社会の一員として「知る」「意見を言える場」への参加を通じて市民活動=みんな幸せになれる社会づくりに主体的に関わることを身近に感じられる機会が必要です。	A	市民活動について身近に感じられる機会の一つとして、子ども・若者へのアプローチについても検討していきます
108	施策の柱4 つながる・変わるについて	・市民活動の柱となる”思いやり”の精神を育むよう、教育制度を見直したり、より相互扶助的な社会構造への転換に取り組んだり、お祭りなどでの地域伝統文化を保護するよう行政が積極的にサポートする等が必要であると感じた。	D	本計画においては教育制度の見直しや社会構造そのものの転換といった部分まではカバーしていませんが、市民の皆さんが自然に支え合い、様々な形でかかわりを持てる市民活動が促されるような環境づくりに取り組んでまいります。
109	施策の柱4 協働の推進について	協働パイロット事業について ・公募から締切までのタイミング、市の担当者との意思疎通 年度末からの公募でマッチング先の課の担当者があ年度初めに異動してしまい事業を進めるのに困った、紹介してもらった課に相談に行くところの企画意図が伝わっていなかった、という事例を聞いています。公募、決定の時期をもっと早めることで事業は取り組みやすくなると思います。	D	今後の協働パイロット事業の展開にあたり参考とさせていただきます。
110	施策の柱4 つながる・変わる ①多様な主体の相互理解や協働の促進	市の協働パイロット事業はとても良い取り組みだと思いますが、市民にあまり知られていないのが残念です。そこで、協働パイロット事業の成果発表会や公開シンポジウムなどをして発信してはいかがでしょうか？	D	

第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)についてのパブリックコメント 意見一覧

回答番号	ご意見のタイトル	ご意見の内容	A: 計画に反映する B: 計画に反映済み C: 計画に反映しない D: 今後の取組の参考とする E: その他 (質問や感想等を含む)	市の考え方
111	第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)の概要について	第4次静岡市市民活動促進基本計画(案)の概要にあるように、市民活動は、行政や企業の営利活動では埋められない部分をカバーするものであると思いますし、市民が主体的に活動することは大切なことだと思いますが、「行政がやってくれないから、市民が自らやらなくては」というイメージを持って活動している分野もあるのではないのでしょうか？行政と市民が一緒になって取り組んでいることがなかなか理解されていないのであれば、その事をとても残念に思います。「行政と市民が一緒になって」という意識をもって活動する方が、対立の思いを抱えて行う活動よりも私たちの暮らしを心豊かにする効果が大きくなり、市民の安心にも繋がると思うので、行政側は市民と共に取り組んでいることをもっとアピールするべきだと思います。	B	協働事業は、行政ができないことを市民活動団体に引き受けてもらうことではなく、課題の解決に向けて様々な主体が果たすべき役割に応じて、協力し合い、又は補完し合っで行うものと考えています。こうした認識のもと、引き続き協働事業の創出に取り組んでまいります。
112	異なる組織や世代をつなぐ取組の支援	異なる世代・組織が交流する機会というのは少ないと思うから、異なる世代・組織の人が関わりあって、交流したり、意見を交換するような場をもうけたり、そのような人々をつなぐ取り組みは、町には、いろいろな世代の人たちが住んでいるから、とても大切で、町づくりには、かかせないことであると思う。具体的にどのような取り組みがあって、課題を解決してきたのか知りたいと思った。組織・世代の一部の意見に傾かないか気になった。	A	世代間をつなげていくためには、相互の理解や交流が必要であると考えています。ご意見を参考に、施策の柱4(2)について、直接的な後継者育成支援に限らず、異なる世代や組織の交流の機会を創出していくという観点を取り入れてまいります。
113	施策の柱1 触れる・楽しむについて	イベント、企業や商業施設と協力しながら、活動している団体の紹介の場や、体験する機会を多く作って頂きたい。行政は土日休みになりますし、わざわざそこに行かないと意見・相談できない状況を解決してほしい。その場にコーディネーターがいると心強いです。	D	市民活動センターにおける活動相談や団体間のコーディネートといった中間支援機能が効果的に発揮されるよう、各種イベントや企業等とも連携した取組を進めてまいります。
114	施策の柱4 つながる・変わる ①多様な主体の相互理解や協働の促進	特定分野ごとのギャザリング(交流会)を、その分野に関連した施設やフィールドで開催できるとよいと思います。例えば、防災ならば「かわなび」を会場に、海辺の環境保全ならば「みほしるべ」を会場に、里山関係なら「あさはたグリーンパーク」など、その分野に取り組む市民活動団体がまさに関連する施設やフィールドに集まると、相互理解や協働が深まりそうです。また、市民活動団体だけでなく、企業の方もお招きできればNPOと企業の協働も進むのではないのでしょうか。	D	今後の事業検討の参考とさせていただきます。
115	施策の柱4 つながる・変わる ②活動を次世代につなげるための支援	市民活動団体と学生サークルのギャザリング(交流会)を、大学・専門学校の施設を借りて開催できるとよいと思います。そうすることで、市民活動団体と学生サークルの協働が始まるきっかけになり、もしかしたら、学生メンバーの中から市民活動団体の後継者が生まれるかもしれません。なお、ギャザリングは、「市民活動全般」ではなく、特定の分野(例えば、防災、環境、子育てなど)に的を絞る方が、深い交流ができると考えます。	A	ご意見を参考に、施策の柱4(2)について、直接的な後継者育成支援に限らず、団体同士の新たな連携等をコーディネートしていくという観点を取り入れてまいります。
116	施策の柱4 つながる・変わる	次世代につなげる。非常に難しい。年代のギャップは考え方が相違する。若い世代は有償ボランティアを希望する人が多い。又働いている人を取込むためには土曜、日曜、夜などの取組みを促進する必要があると思う。年上の世代も若い人の意見を聞く事も必要。	A	世代間をつなげていくためには、相互の理解や交流が必要であると考えています。ご意見を参考に、施策の柱4(2)について、直接的な後継者育成支援に限らず、異なる世代や組織の交流の機会を創出していくという観点を取り入れてまいります。
117	施策の柱4について	多様な主体の相互理解のため、色々な国の文化を学ぶ施設があれば良いと思う。	D	市の「多文化共生のまち推進条例」に基づき、多様な文化又は生活習慣を持つ市民相互の理解を深めることができるよう、地域における交流の促進に取り組んでまいります。